

# みずほ情報総研株式会社 様

Cisco ACIによるネットワーク仮想化を導入し、  
アジリティ向上、コスト削減、運用の内製化を実現

総合金融コンサルティンググループを目指す、みずほフィナンシャルグループは、オペレーショナル・エクセレンス(卓越した業務遂行力)の実現に向けてシステム構造改革に取り組んでいます。グループのITインフラを担う、みずほ情報総研株式会社様はネットワークのアジリティ向上、コスト削減、運用負荷の軽減などの課題を解決するべくCisco ACIによるネットワーク仮想化を導入しました。構築ベンダーには大手企業へのCisco ACIの導入実績があり、実践に基づく技術力やノウハウを有する富士通を採用。ネットワーク仮想化基盤の構築とともに運用の内製化を実現し適用領域の拡大を図っています。



みずほ情報総研

## 課題

プライベートクラウド収容ネットワークのアジリティ向上、コスト削減を図りたい

複雑化したネットワークの運用管理を効率的かつ統合的にやりたい

Cisco ACIの操作を習得し運用の内製化を実現したい

## 効果

Cisco ACIによるネットワーク仮想化を導入し、1か月を要した開発環境の提供を3日に短縮、構築コストも従来比で半減を見込む

ネットワークの設定や機能を抽象化しプロファイル化することで細かい設定なしでネットワークを迅速かつ簡単に構築。またマルチハイパーバイザ対応でOSに縛られることなく各種サーバが収容できるため統合管理が可能に

プロジェクトメンバーを富士通へ派遣し、短期間で実践的な技術とノウハウを習得。運用の内製化によりビジネスのスピードへの対応、コスト削減に貢献

## 採用のポイント

- ・国内大手企業のシステム仮想化案件におけるCisco ACIの導入実績
- ・Cisco ACIに関する技術力と運用ノウハウ、サポート力
- ・スケジュール厳守、コスト、組織力の3つのポイントを評価

## 導入の背景と経緯

### お客様サービス提供力No.1を目指し オペレーショナル・エクセレンスを追求

総合金融コンサルティンググループを目指す、みずほフィナンシャルグループにおいて、シンクタンク機能を有するIT戦略&コンサルティング企業として活躍する、みずほ情報総研。ITをコアとしたコンサルティング、システムインテグレーション、アウトソーシングの3つのサービスを通じて銀行・金融分野はもとより民間企業、官公庁・自治体など、幅広いお客様に対し課題の認識から解決までトータルソリューションを提供しています。

みずほフィナンシャルグループでは銀行、信託、証券などのグループ機能が一体となって総力を発揮し、お客様のあらゆるニーズに最大限に答えていくOne MIZUHO戦略を推進しています。株式会社みずほ銀行様のITシステムグループと連携し、具体的なソリューションを提供することでOne MIZUHO戦略をITで支えて

いるのが、みずほ情報総研です。「当グループではお客様サービス提供力No.1を実現するために業務高度化・効率化プロジェクトによりオペレーショナル・エクセレンス(卓越した業務遂行力)を追求しています。その実現に向けてシステム構造改革やIT業務プロセス改革に取り組む中で、大きな課題となったのが複雑化したネットワークでした」と、みずほ情報総研株式会社 銀行システムグループ 共通インフラ事業部第3部 部長 横田康敏氏は話します。

### Cisco ACIによるネットワーク仮想化で 従来の3階層モデルの課題を解決

みずほフィナンシャルグループにおける既存ネットワークの課題について、共通インフラ事業部第3部 課長 細矢大輔氏はこう話します。「One MIZUHO戦略に向けてインフラの共通化、仮想化による集約化を進めてきました。しかしネットワークに関しては大きな技術革新がなく従来のネットワーク技術では対応困難な状況が増えて

きました。グループ各社保有の物理ネットワークが複雑に相互接続し、運用管理が非常に煩雑化しており、開発や改修に多くの時間とコストを要しました。またビジネスのスピードに応えるべく仮想化やクラウドの活用が進む中、従来の3階層モデルではアジリティや拡張性、収容効率の向上を図る上で構造的な課題を抱えていたのです」。

既存ネットワークの課題を解決するために着目したのが、ネットワーク仮想化を実現するCisco ACI (Application Centric Infrastructure) でした。評価ポイントについて、共通インフラ事業部第3部 エグゼクティブマネージャー 橋本忍氏はこう述べます。

「今後のデータセンター戦略としてネットワーク仮想化、SDN (Software-Defined Networking) 環境の整備は重要なテーマです。Cisco ACIはネットワーク機器を個々に設定するのではなく、ネット



横田 康敏 氏  
みずほ情報総研株式会社  
銀行システムグループ  
共通インフラ事業部第3部  
部長



**細矢 大輔 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 課長



**橋本 忍 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 エグゼクティブ  
マネージャー



**水戸 誠哉 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 リードITエンジ  
ニア



**堀田 佳奈 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 ITエンジニア



**小林 聡 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 リードITエンジ  
ニア



**島袋 翔吾 氏**  
みずほ情報総研株式  
会社 銀行システムグ  
ループ  
共通インフラ事業部  
第3部 リードITエンジ  
ニア

**会社概要**

本社所在地 | 〒101-8443 東京都千代田区  
神田錦町2-3

代表者 | 代表取締役社長 西澤 順一

設立 | 2004 (平成16) 年10月1日

従業員数 | 4,654人 (2018年3月31日現在)

事業概要 | ITをコアとした「コンサルティング」「シ  
ステムインテグレーション」「アウトソー  
シング」の3つの事業を展開

ホームページ | <https://www.mizuho-ir.co.jp/>

ワークの設定や機能を抽象化、プール化を行  
い、これらをポリシーとして規定しプロファイル  
化することでネットワーク全体に対し迅速かつ簡  
単に変更・追加が行えます。アプリケーション・ネッ  
トワーク・プロファイルという概念で、物理と仮  
想のネットワークを同時に制御することも可能  
です。物理的な制御やend-to-endの細かい経  
路設定から解放されるため運用負荷を大幅に軽  
減できます。また仮想サーバとベアメタルとの  
連携を考慮し、マルチハイパーバイザ対応でOS  
に縛られることなく各種サーバを収容できる点  
も評価しました。

**採用のポイントと導入のプロセス**

**Cisco ACIの導入実績に基づく技術力と  
ノウハウが富士通採用の決め手**

2015年5月にCisco ACIのPoC (Proof Of  
Concept) を実施。その評価後、2018年3月の  
プライベートクラウド拡張に合わせて本番環境  
を構築するべくベンダー選定に入りました。選  
定ポイントについて、共通インフラ事業部第3部  
リードITエンジニア 水戸誠哉氏は「スケジュー  
ルの厳守、トラブルシューティングできる組織  
力、コストの3点を基本的なポイントとしました。  
またPoCを実施し技術習得は進めていましたが、  
本番環境で実際に動かすレベルにはなっていな  
かったため、Cisco ACIに関する技術力やノウハ  
ウを重視しました」と振り返ります。

3つのポイントに加え、Cisco ACIの導入実績  
が富士通採用の大きな決め手となりました。「富  
士通は2015年に国内大手企業のシステム仮想  
化案件においてCisco ACIの導入に成功していま  
した。私たちの質問に対し即答できるメンバー  
が揃っており、その実力を実感し、安心して任せ  
ることができると確信しました。また当グルー  
プにおいてプライベートクラウド環境をはじめ多  
くのプロジェクト経験を有しており、実績に基づ

く信頼関係とともに当グループのネットワーク  
を熟知していることも評価しました」(水戸氏)。

**運用の内製化のために  
プロジェクトメンバーを富士通へ派遣**

2016年12月、本番環境の構築ベンダーとし  
て富士通の採用を決定。構築のプロセスでは  
運用の内製化や迅速なサービス提供、コスト削  
減を実現するため、収容パターンや変更パター  
ンのカタログ化に取り組みました。「従来もカタ  
ログ化はしていましたが、これまでは個々のネッ  
トワーク機器への設定が必要となるなど効率面  
で課題がありました。Cisco ACIは細かな設定  
なしでネットワークエンジニアでなくてもネッ  
トワークを容易に構築できることから、カタログ化  
の推進を加速できます」と、共通インフラ事業  
部第3部 ITエンジニア 堀田佳奈氏は話します。

今回、内製化のためにプロジェクトメンバーを  
富士通へ派遣し、短期間で一連の操作スキルの  
習得も行いました。「配線、テスト、課題解決な  
ど実際に構築に関わることができたことで、社  
内で運用する際に役立つ実践的な技術とノウハ  
ウを身に着けることができました」(堀田氏)。

**今後の展望**

**1か月を要していた開発環境の提供を  
3日に短縮、構築コストも半減を見込む**

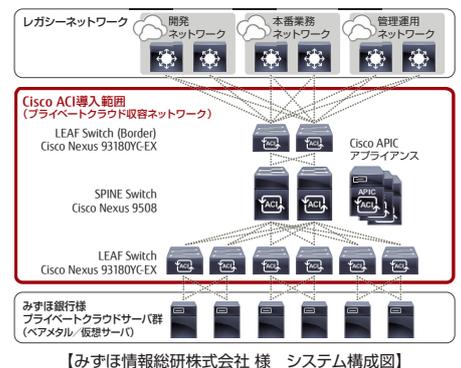
2018年3月、Cisco ACIによるネットワーク仮  
想化基盤はスケジュール通りにカットオーバー  
を迎えました。プライベートクラウドへの業務シ  
ステムの受け入れは2018年10月から始まりま  
す。共通インフラ事業部第3部 リードITエンジ  
ニア 小林聡氏は導入効果への期待を口にしま  
す。「従来、開発環境の提供に1か月を要してい  
ましたが、Cisco ACIによるネットワーク仮想化環  
境のもとでカタログ化することにより3日に短縮

することができます。また内製化や工数削減に  
より従来比で構築コストも半減できる見込みで  
す。さらに必要に応じたタイミングで拡張・変更  
ができることに加え、統合的に管理することが  
可能です」。

クラウド収容ネットワークのスピーディーな提  
供の観点では、レガシーなネットワークの運用  
の効率化も重要なポイントとなりました。「富士  
通と議論しながら、ネットワーク側とシステム側  
で重複していたセキュリティについて見直しを行  
うなど、レガシーなネットワークに関しても設定  
作業の簡素化を図っています」(小林氏)。

今後の展望について、共通インフラ事業部第  
3部 リードITエンジニア 島袋翔吾氏はこう話しま  
す。「仮想サーバや物理サーバ等、サーバの種  
類ごとに収容パターンをカタログ化しCisco ACIに  
よるネットワーク仮想化基盤に収容することで、  
レガシーなネットワークからの脱却、データセン  
ター全体のネットワーク仮想化を目指します。ま  
た拠点間のSD-WAN化や、パブリッククラウドを  
含めたネットワーク仮想化により、さらなるアジ  
リティ向上、コスト削減を追求し、オペレーショ  
ナル・エクセルシブの実現に貢献していきます」。

横田氏は「技術的にも規模的にも、ネットワ  
ーク仮想化の導入は大きなチャレンジでした。富  
士通にはこれからもサポートとともに先進的な  
提案を期待しています」と言葉を添えました。



●記載されている内容については、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。(取材日：2018年7月27日)

**製品・サービスについてのお問い合わせは**

**富士通コンタクトライン (総合窓口) 0120-933-200**  
受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・当社指定の休業日を除く)

**富士通株式会社** 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター